



子ども読書推進運動進行中!

キリンがいない北海道
釧路市立動物園に、キリンを贈ろうと奮闘した市民団体「チャイルズエンジェル」の活動に触れた志茂田さんが、キリンを待ちわびる子どもを描いた。淡々と進む物語は、エンターテインメント性は少ないものの、しっとりと味わい深い。

日本絵本賞の最終候補24作品のうち、読者の投票が最も多かった作品に贈られる読者賞(山田養蜂場賞)に「キリンがくる日」(志茂田景樹・文、木島誠悟・絵、ポプラ社、本体1300円)が選ばれた。2位に1万5000票近い大差をつけた圧倒的な得票で、作者の志茂田景樹さん(74)は「多くの人に投票してもらえ、うれしい」と喜びを語った。【木村葉子、写真も】

伝わる命の輝き、尊さ

投票総数4万8015票

日本絵本賞読者賞(山田養蜂場賞)には全国から4万8015票が寄せられ「キリンがくる日」は1万8614票を獲得し、2位の「りんごかもしれない」(ヨシタケシンスケ・作、プロンス新社)の3882票を大きく引き離れた。3位以下は次の通り。

3位「だって…」(石津ちひろ・作、下谷二助・絵、国土社)2802票▽4位「シバ犬のチャイ」(あおきひろえ・文、長谷川義史・絵、BL出版)2688票▽5位「おひるねけん」(おだしんいちろう・作、こばようこ・絵、教育画劇)2099票

なった。この熱気がそのまま投票につながった。加えて、長年まい「絵本の種」が花開き、大きな原動力となって得票に結びついた。

街の雑踏でも一目でわかる。そのせいか、「保育園のころ読み聞かせをしてもらいました」と声を掛けられることも多い。フォロワーの中には、幼い日にサインをもらった絵本の写真を寄せる人もあるという。「キリンを子どもたちに見せよう。動物園にキリンを贈ろう」という鼻息がたを、みんなにみてほしい」という言葉に、自身の思いを込めた。

子どもの目線で考え、描く

大人が上から子どもたちに絵本を与えるのではなく、子どもの目線に立ち、考えていることをすくいとるような作品を、これからも作り続けたいと考えている。

読者賞

志茂田景樹さん

「キリンがくる日」



しもだ・かげき

1940年静岡県生まれ。中央大学法学部卒業。さまざまな職業を経て作家を目指し、40歳の時に「黄色い牙」で直木賞受賞。絵本や児童書作品も多く、読み聞かせ活動も精力的に行っている。